

## ● 日本とロシアの歴史

今年、日本とロシアが国交を樹立してから 151 年（日露修好条約）。当時、ロシアは帝政ロシアでしたし、日本は徳川幕府時代でしたが、この条約は国交の開始を記すとともに、択捉島とウルップ島との間で両国の国境を平和的に定めたものです。その後の両国関係は決して平坦な道のりではありませんでしたが、冷戦が終焉してからは真のパートナーシップの構築に向けて着実に歩みを進めてきました。

## ● 地域の国際情勢（アジアとしてのロシア）

ロシアの国土面積の 4 分の 3 に相当するシベリア・極東地域はアジアとしての側面が強く、この地域での協力の可能性は大きいです。

まず、北朝鮮の核開発問題、拉致問題は脅威を増しています。北朝鮮に歯止めをかけるためには、必要な時には圧力を掛けていく必要があります。その中でロシアが北朝鮮に対して有する影響力に非常に注目しております。核不拡散、密輸、拉致といった問題について、責任ある立場からロシアが北朝鮮をめぐる問題に臨むことを期待しています。

また、中国は年間 10% 近い経済成長を遂げており、今後、政治的・経済的プレゼンスを一層増大させるでしょう。韓国も世界の重大な経済大国になりつつあります。

このような変化の波の中で、この地域の安定と繁栄を確保していくには、日本とロシアの間の相互の理解と協力が鍵を握っていると考えます。

## ● 経済面での日露関係

日露間の貿易量はここ数年 5 割増しの伸びを示し、過去最高の水準に達しています。ただ、そうした現在の日本とロシアの関係は満足するレベルではありません。貿易額では日米間の 40 分の 1、日中間や日 EU 間の 20 分の 1 です。桁が一つ違います。

日本はロシア、特にシベリア地域の開発への協力を強い関心を持っています。これまでは極東・シベリアでの石油・ガスといった資源開発に焦点が当たりました。勿論、シベリア・パイプラインやサハリンでの石油・天然ガス開発の分野は重要です。しかし、私は日露の経済協力関係についてもっと先を見据えたいと思います。ロシアとの関係が資源を買う側、売る側という一方的なものとなることは正常な姿ではありません。今、我々はロシアを壮大な市場として捉え始めています。伝統的な日露間の経済関係を越えた新しい思考を持ち、相互に優位な分野で力を貸し合う関係を築くべきだと思います。

## ● 現在の日露関係

しかし、日露関係はいまだ弱いのも事実です。日露関係の発展・強化は、日露両国及び北東アジア地域の安全保障環境の改善ということにも繋がっていくものです。ロシアとの間で、平和条約の締結、経済分野での協力、国際舞台における協力という、幅広い分野での三つの課題があります。

日露関係が十分発展していない要因の一つは未解決の北方領土問題です。領土問題が存在しているために、平和条約が締結できないままになっていることは不幸です。

我々には我々の強い立場があります。ロシア側も同様だと思います。プーチン大統領が

この問題を解決するために強いシグナルを送っていることを承知しています。ロシア人はこの件についてよく「現実主義的な解決」と言うことも分かっています。今一度、我々は英知を終結して互恵の精神でこの問題へ取り組むべきです。

もちろん、日本として、平和条約が締結されないからと言って、その他の分野での対話と協力を進めないわけではありませんが、平和条約を締結することで関係を正常化できれば、日露協力の基盤は格段と末永く強固なものとなるでしょう。

#### ● 両国の青年交流、文化交流

今後の日露関係を支えていくためには、国民一人一人の交流が何よりも大事です。今後、青年交流の意義というのはますます高まっていると私は思います。

我が国とロシアは別の言語圏、別の文明圏に属する国ではありますがロシアの文学や音楽は多くの日本人に親しまれております。私自身、先日「白鳥の湖」を鑑賞する機会があり、その芸術性に感銘を受けました。また、ロシアで、日本の伝統芸能や武道に代表される精神性に関心を有していることを感じます。

日露の相互交流、相互理解を促進するために、今後は文化交流にも一層力を入れていきたいと考えています。

#### ● 最後に

私は今後ともロシアの関係発展に努めていきます。今年が日ソ共同宣言から 50 周年。これから 50 年後、私は 97 歳になっていますが、私はその時に孫を連れてロシアを訪問したいと思います。その頃には技術が発達し、逐一通訳を介さずとも自動通訳機で話すことができるようになっているでしょう。